

〔平成 23 年 6 月〕

平成22年度 福島学院 事業報告

大学及び短期大学について

平成22年度は、創立70周年という節目の年に更なる飛躍を目指して、以下の項目を基本方針として運営を行った。

- ◆ 優先順位をつけたの事業計画実行
- ◆ 地域社会との更なる連携
- ◆ 日本高等教育評価機構による大学の認証評価受審
- ◆ 学院創立70周年記念事業の実施



平成22年度の学生数、教職員数、及び主な項目別の事業報告は以下のとおりである。

★平成22年度の学生数及び教職員数★

在籍学生数の推移は少子化が進行する中で次のとおりとなった。

● 福島学院大学 学生数の推移（各年5月1日現在）

学 部	22年度 収容定員	22年度 学生数	21年度 学生数	20年度 学生数	22年度学生数と収容定員比 (21年度比・20年度比)	23年度 学生数(参考)
福祉学部・大学院	414名	336名	366名	387名	-78名(-30名・-51名)	328名
短期大学部昼間 部(専攻科含む)	746名	756名	697名	672名	+10名(+59名・+84名)	733名
短期大学部夜間 部(専攻科含む)	160名	115名	115名	137名	-45名(±0名・-22名)	126名
合 計	1320名	1207名	1178名	1196名	-113名(+29名・+11名)	1187名

● 福島学院大学 教職員数推移（各年5月1日現在）

職 種	22年度人数	21年度人数	20年度人数	21年度比 (20年度比)	23年度人数 (参考)
専任教員	65名	66名	67名	-1名(-2名)	65名
専任職員	45名	44名	41名	+1名(+4名)	47名
特別職員	10名	7名	7名	+3名(+3名)	8名
派遣職員	11名	10名	11名	+1名(±0名)	10名
合 計	131名	127名	126名	+4名(+5名)	130名

1. 東日本大震災における本学の被害状況と経過

ー 激震 マグニチュード9.0 3月11日 福島学院の一番長い日 ー

平成23年3月11日（金）午後2時46分に発生した東北地方太平洋沖を震源とする観測史上最大の巨大地震により、宮代キャンパスの本館が倒壊するなど大きな被害を受けた。この地震の影響により、本学の一大イベントである学位授与式・メモリアルコンサート、入学式も会場である福島県文化センターが震災被害による使用不能のため、中止せざるを得ない状況となった。

なお、本館については5月末で取り壊しが終了し、その他の被害があった建物も6月末現在において、すべて修繕等により復旧済みとなっている。

このような危機的状況下で一日も早い教育環境の復旧のため、いち早く本館の取り壊しを決定し、倒壊校舎からの荷物搬出整理、研究室・執務室の臨時的配置を行い、教職員が引っ越し作業等行う中で、倒壊した本館の教室・実験実習教室を補完するための仮設校舎の確保、四大学生1、2年生授業を駅前に教室を移し実施する方針として、不足する教室の補完用駅前貸ビル手配、そして新館建築計画開始等、息つく間もないほどのスピード感を持って対応を行った。



そして、授業の開始を5月連休明けの9日から開始できるよう準備を進め、5月3日には入学式が中止となった代わりに学生の任意参加として福島市音楽堂にて「入学歓迎会」を実施した。入学歓迎会においては学位授与式で発表する予定であった歌や踊りなども一部披露し、会場の雰囲気に出席した新入生、保護者からは感嘆の声があがっていた。

5月末現在、授業も軌道に乗り、学生の歓声がキャンパスに戻ってきた。新校舎建築を中心とした再建計画も具体化され、実現に向けて作業進行中であり、本学は復興にむけて着実に前に進みつつある。

2. 福祉学部・大学院の認証評価受審

一 短期大学部に続き、高い評価を受ける 一

平成22年度は福祉学部、大学院の認証評価を受ける年として、平成22年10月13日から14日にかけて、日本高等教育評価機構の評価員訪問による実地調査を受けた。

その結果、1月14日付日本高等教育評価機構より「認定」の内示をいただき、3月25日付で正式に「認定」である旨の評価結果が通知された。建学の精神に基づいたカリキュラムや授業内容の具現化など、多岐にわたり高い評価を受けた。

3. 福祉学部・大学院・短期大学部の状況 【*トピックス*】

平成23年度の学部学科のトピックスは以下のとおりである。

福祉学部 福祉心理学科

①「建学の精神」を具現化する人の立場を考えて行動できる人材の養成

1年次科目「コミュニケーション演習」と3・4年次科目「生活教養2（平成24年度開講科目）」を新設した。2年次科目「福祉キャリア研究」等の従来設置の科目と合わせて4年間を通じての体系的なキャリア教育を実施した。

②社会福祉コース、精神保健福祉コース国家試験状況

国家試験対策セミナーや自主勉強会等の支援に努め、福祉心理学科の国家試験合格者は22名（社会福祉士10名、精神保健福祉士12名 ※既卒者4名含む）となり、県内養成校中第1位の合格率となった。



大学院 臨床心理学研究科

平成19年度新規開設の本研究科は4年目を向かえ、教育・研究体制もほぼ完成され、学生の心理臨床実習の充実が図られ、国内外における臨床心理学関係学会で研究業績の発表数が増加した。平成22年度は本研究科の特色である社会人特別推薦による合格者が初めて入学した。なお、今年度も臨床心理士資格試験に本研究科修了生1名が合格した。修了生は取得した資格を生かして県内医療機関での業務に従事している。また、その他の修了生の中には大学院博士課程（他大学）への進学者1名が見られ、研究者を目指して研鑽に努めている。

保育科第一部

マナー教育の重要性から、授業科目「生活教養」においてのテーブルマナー演習を再開実施することとした。これからの生活において大切となる「西洋料理のテーブルマナー」を実践的に学習することを目的に実施し、また、併せて「冠婚葬祭のマナー」授業の一環として、現代のブライダル事情の特別講義や模擬挙式の体験を通して、招待客のマナーなども学ぶ機会となり、満足度が高いものであった。

保育科第二部

平成22年度に新規に実施した事業としては、9月に飯舘村のキャンプ場において、しらゆり会主催のキャンプを実施した。参加者はCクラスの1年生と3年生の15名であったが、レクリエーションやバーベキューなどで学年の垣根を越えた交流ができた。

**食物栄養科**

福島学院創立70周年を記念して食物栄養科では「介護食を考える」をテーマに8月4日、5日の2日間にわたり、初めてのセミナーを開催した。このセミナーは近年、高齢化が進むにつれ、通常の食事よりも嚙んだり、飲み込んだりしやすいように粘度や具材の固さ・大きさを調整した介護食のニーズがますます高まっている状況を受け、高齢者の食事管理・食事介助についての「食」の知識を深めるため、実務経験者向けセミナーを実施した。参加者は120名を超え、大盛況のうち終了することができた。

情報ビジネス科

資格取得に関しては、秘書検定2級8名、サービス接遇検定準1級57名など一定の成果を得た。設備面での充実では、デザイン教育用のMacコンピュータ30台を文部科学省の補助金を得て最新型に更新することができ、Webデザイン教育の充実ならび

に新入生募集に力を発揮することが期待できる。

専攻科福祉専攻第一部

本科の社会貢献として、一般の介護従事者および地域住民を対象として以下の講習会を開催した。

①介護技術講習会

今回6年目となる介護技術講習会は、平成22年度は3回開催し、119名修了した。

②介護福祉士国家試験受験対策講座

定員(50名)のところ、参加希望者が多く、79名の受講者を対象に開催した。

その他、介護支援専門員受験対策講座、高齢者介護チャレンジ講座等の講座を実施した。



専攻科保育専攻第二部

専攻科保育専攻第二部は、東京芸術大学特任教授・遠山文吉氏をはじめとして音楽療法の第一線で活躍する教授陣に授業を依頼しているが、本年度の主な特徴としては音楽の関連科目である幼児音楽分野の特別講師として国立音楽大学元副学長であった繁下和雄氏、NHK「おかあさんといっしょ」の監修者谷口國弘氏を招聘し、うたあそびや楽器あそびを取り入れたバラエティに富んだ歌曲法を学んだ。

また、医学分野では福島赤十字病院副院長渡部洋一氏、県立福島医科大学の睦多佳子氏を招聘し、脳の仕組みと音楽の関係について講義を受けた。

4. 心理臨床相談センター及びメンタルヘルスセンターの運営

心理臨床相談センター

福島駅前キャンパスで運営を行なっている大学院の臨床研究実習施設である心理臨床相談センターの外来相談利用者は年間延べ1856人の利用があり、児童・生徒の不登校や引きこもりといった「心の問題」の相談にあたった。また、増加傾向にある本学の学生相談については延べ226名の相談があったが、そのうち、宮代キャンパス学生相談については延べ74名の相談があった。また、前年度に引き続き専門性を活かした公開講座も実施した。

・「心療内科医が語る“心身一如”」星野教授・安田教授担当(7~9月・全12回36名参加)



- ・幼稚園教諭対象ブラッシュアップセミナー（11～3月・全5回3名参加）

メンタルヘルスセンター

メンタルヘルスセンターはストレスの多い現代社会における社会人を対象にカウンセリング等を行う目的で活動している。22年度は前年度に引き続き、福島市内病院の相談事業顧問契約依頼を受けた。就労者に対するカウンセリングは年間18回・延べ109名に行った。

その他、地域のメンタルヘルス事業の一助となるよう公開講座を以下のとおり実施した。

- ・ヨガ教室（4月～2月・全19回延べ110名参加）

5. 教養体育の運営状況

－ 種目選択制体育 －

本学体育実技は、完全種目選択制をとっており、25種目の中から、希望者が規定数に達しない種目を除いた、次の15種目を開講した。

＊平成22年度体育実技開講種目（15種目）

卓球、バスケットボール、ソフトボール、バレーボール、テニス、バドミントン、サッカー、レクリエーション、エアロビクス、ジャズダンス、体育実技I（情ビ）、合気道、スイミング&アクアエクササイズ、スキー、スノーボード

6. 福島駅前キャンパスの運営

開設5年目となった福島駅前キャンパスは、経費のかかる新規事業を予定せず、教職員各々が工夫をこらし、コミュニケーション力を常に持つことにより、既存事業内容の充実を図り、目に見える成果をあげていくことを目標として運営を行った。なお、項目別には以下のとおりである。



充実した公開授業、公開講座、人材寄付講座の実施

公開授業（無料）

福島駅前キャンパスで実施される福祉学部、情報ビジネス科の講義科目授業について市民、県民の方に無料で聴講を認めている。履修者については前期130名、後期105名（通年科目80名・前期科目50名・後期科目25名）が学んだ。

人材寄付講座（無料）

22年度も、地元企業、官公庁との連携によりプロフェッショナルな人材を無償で提供を受け、前期・後期併せて10プログラムを提供した。受講者は10講座あわせて949名で、講座を提供した企業や官公庁からも、受講者によるアンケート結果からも大変好評であった。

地域社会への貢献活動

① 学生の地域諸行事・ボランティア活動への積極参加

毎年中心市街地において行なわれる七夕まつり、わらじまつり、稲荷神社例大祭などに学生が積極的に参加してボランティア等支援を行い、地域の方との交流を深めることができた。

【学生参加の主な行事】

8月に行われた“わらじまつり”では学生の日頃の練習成果が認められて賞を獲得、Ⅱ部のYOSAKOIクラブは3年連続のグランプリを獲得、福島市の夏の風物詩のひとつである七夕まつりにおいても学生の制作した七夕飾りが3年連続市長賞（最優秀賞）を獲得するなど、快挙を成し遂げた。



② 施設貸与事業

施設貸与事業は原則有料で地域活動をする様々な団体に空き時間を利用して教室等貸与し、活性化の一助となった。

〔平成22年度の施設貸与状況〕

福島大学、福島リビング新聞、福島地方裁判所、福島商工会議所、福島県聴覚障害者協会、JTB東北、NPO法人まごころサービス福島センター、本の博覧会実行委員会、福島東稜高校など全58件

なお、宮代キャンパスにおいては、県社会福祉協議会、県保健福祉部、創世グループなどに建物施設貸与を行い、学内テニスコートについても有料使用の会員や地区体育協会に貸与した他、大原看護専門学校、北信中学校などに週1回ずつの定例的な授業に無料貸与して地域社会に貢献した。

7. 公開講座の実施（宮代キャンパス）

★教員免許状更新講習会

教育職員免許法改正により、文部科学大臣の認定を受け、7月30、31日「必須

領域」から8月9～11日「選択領域」の5日間期間あたり、47人の受講者により実施した。内容に関しては、受講者アンケートによれば「学習意欲のわく工夫をしており、説明がわかりやすい」などの意見が大半であり、非常に満足度の高い結果となった。

★保育科公開講座

平成22年8月6日 テーマ「子どもの世界を多面的に考える」 参加者149名

子育てや保育が多様化する現在、子どもにかかわる保育士、幼稚園教諭として取り組むべき諸問題に対応するため、保育学のみならず、福祉学、心理学、精神医学、栄養学など幅広い分野を連携させた講座を設定した。梁川ざっと昔の会 横山幸子氏の講演を始め、多彩なテーマでの実施内容に、実施後の参加者アンケートでは満足度の高い回答が多く寄せられた。

※食物栄養科の介護食セミナーについては学科のトピックス参照

8. 地域社会との連携

－ 飯舘村との相互友好協力協定締結 －

平成21年12月14日、地域産業の振興や人的交流などの連携協力を目的として、本学と飯舘村との間で相互友好協力協定を締結した。平成22年度は以下のような事業を実施した。

福祉学部福祉心理学科

- ◇ 学外研修「福祉キャリア研究」（7月・村の福祉施設見学）
- ◇ 「社会福祉援助技術現場実習」（8～9月・村役場、社会福祉協議会への実習）
- ◇ 千葉忠夫氏特別講義（5月・村と親交のあったデンマーク在住のソーシャルワーカー千葉氏他2名による特別講義）
- ◇ フィールドワーク調査（9月・村の地域福祉計画策定に向けた住民意識に関する調査）



保育科第一部

- ◇ 国内研修旅行（9月・村の保育所、老人福祉施設などを見学）

専攻科福祉専攻第一部

- ◇ 学科FD活動教員研修（8月・いいたてホーム他）

食物栄養科

村特産品（ヤーコン）とどぶろくを利用した特産品の開発及びヤーコンジュースの開発案の提供（通年）

情報ビジネス科

- ◇ 飯舘村 立村55周年ロゴデザイン提案（1月提案）
- ◇ 飯舘ブランドの酒ラベルデザイン（2月提案）
- ◇ 飯舘村PTA休暇カードデザイン提案（3月提案）

メンタルヘルスセンター

- ◇ 役場職員対象講演会「地域の生活と心の健康」（星野教授、末廣教授）（7月実施）
- ◇ 住民対象講演会「心の健康のために」（玄永講師）（10月実施）

企画広報室

- ◇ 福島駅前キャンパス1階展示ホールでの絵画展（5～6月）、事業内容「大学報」掲載

学生課

- ◇ のぎく祭での村特産展等の催し実施（10月）
- ◇ いいたてエコビレッジフェスティバル2010（夏祭り）への学生参加（7月）
- ◇ いいたて秋祭りへの協力としてYOSAKOIクラブ出演（10月）

福島駅前キャンパス事務室

- ◇ 人材寄付講座での講演（7月・全3回）

業務課

- ◇ 本学所蔵の図書（絵本）の寄贈

管理課

- ◇ SD研修の一環として役場訪問しLED電球設置状況、エコ対策についての理解を深めた（12月）

9. 国際理解事業

本学では国際理解事業の一環として海外研修を実施しており、平成23年度の状況は以下のとおりである。

海外研修

国際理解演習【福祉心理学科対象】

バリダンスレッスンとバリ島幼稚園交流【保育科対象】



(2単位取得可)

場 所 インドネシア バリ島

時 期 平成22年8月18日～26日(9日間)

引率者 佐藤敦子教授、山田英明教授

参加学生 27名(福祉心理学科7名 保育科20名)

国際理解演習【福祉心理学科・保育科対象】

特別研究【食物栄養科対象】

(2単位取得可)

場 所 韓国 ソウル他

時 期 平成22年9月23日～27日(5日間)

引率者 三浦尚之教授、河野圭助教授、阿部正教授(顧問)

参加学生 23名(福祉心理学科10名 保育科3名 食物栄養科10名)

・国際理解演習【大学・短期大学部対象】

(2単位取得可)

場 所 イギリス、フランス(ロンドン、パリ)

時 期 平成23年2月24日～3月3日(8日間)

引率者 藤由暁男教授、小松由美講師

参加学生 17名(福祉心理学科7名 情報ビジネス科10名)

10. 菅野八千代先生記念教育充実資金

夢のある教育の一環として実施してきた創設者である故菅野八千代先生を記念して設けられた菅野八千代先生記念教育充実資金は、以下の事業に参加した学生に対して補助を行った。

➤ **特別クラブ振興補助金〔理事室〕**

本学YOSAKOIクラブは多数のイベントに積極的に参加しており、福島県の夏祭りメインイベントであるわらじまつりでは3年連続のグランプリ受賞、郡山市主催のうつくしまYOSAKOIまつりでは4位など大きな成果をあげており、本学大学祭や学位授与式でも見る人に感動を与え、本学のPR効果も高めている。一方で衣装代や移動費など多額の運営費がかかることから、今までの実績と今後の活躍に期待し、衣装費等の補助を行った。

➤ **芸術鑑賞会〔教務課〕**

韓国研修旅行に参加する学生を対象に、より一層の韓国文化理解を目的として、6月

15日に福島県文化センターにて実施された韓国舞踊団による公演「チャングムの舞」の鑑賞を行い、そのチケット代の補助を行った。

➤ **学生学外活動補助〔学生課〕**

軽音楽クラブ学外活動（ライブ）補助、ハンドベルクラブ学外活動補助を行った。

11. 学院創立70周年記念事業

平成23年2月15日をもって本学院は創立70年を迎えることとなった。22年度は以下の補助事業を行った。

➤ **キャリア教育センター運営費**

大学設置基準においても盛り込まれた「キャリア教育」に対応するため、大学づくりボランティア制度の構築・実施を目的とした「キャリア教育センター」を22年度に設置し、設置に当たっての運営費として予算を配分した。

➤ **国際理解事業への補助**

➤ **ミュージカル鑑賞チケット代補助**

➤ **渡辺良雄名誉教授遺作展**

➤ **70周年記念用「年賀はがき」作成補助**

➤ **福島学院創立70周年・福島駅前キャンパス開設5年祝賀会**

12. 入学式の挙行及び学位授与式の中止

入学式

平成22年4月6日、平成22年度の入学式を福島県文化センターにて挙行し、福祉学部入学生84名、大学院入学生9名及び短期大学部入学生451名、総計544名が入学を許可された。式後、祝典音楽コンサートとしてミハウ・ソブコヴィアク准教授のピアノ独奏による「英雄ポロネーズ」や、「ポップスの世界」履修学生による「ショーガール」の歌と踊りなどにより会場を盛り上げた。また、21年度の学位授与式でのコンサートの様子も映像により織り交ぜて紹介するなど、本学の特色をより効果的に伝えていくことができた。華やかな演出による大学生活スタートの式典に新入生は笑顔と驚きの表情に満ち溢れていた。



学位授与式の中止

平成23年3月17日に挙行予定であった平成22年度学位授与式メモリアルコンサートは東日本大震災により、会場であった県文化センターが天井一部落下などの大きな被害を受けて使用不能となったこともあり、中止とした。学位授与式を心待ちにしていた卒業生、準備を進めていた教職員にとっては大変残念で悔しい結果となった。

13. 大学祭（第44回のぎく祭）10月18日

テーマ「一期一会 ～みんなに出会って～」

今年は、メイン企画として千葉ホールで行なわれた「どきどきキャンプ」「ピックスモールン」2組のお笑いライブや、学生が歌、踊りのパフォーマンスを競い合うポピュラーソングコンテストが行われ、会場は歓声や笑いに包まれた。また、昨年好評であった「気分はバリ」と称してバリ島の名物料理であるナシゴレンの提供、無料で行う「占いコーナー」、「足湯」コーナーも大変な人気となった。この他、地域連携企画として今回は飯舘村、霊山町提供の郷土芸能や産地直売もあり、前年度の3000人を超える3300人の入場者となるなど、大好評で本学のPR、地域密着につながった。



14. 施設設備の補修・補充とキャンパス整備

平成23年度の主な施設設備補修・補充状況は以下のとおりである。

体育館耐震補強工事 12,915千円

本館3階教室内装改修工事 11,757千円

図書館情報センター暖房ボイラー本体交換工事 4,922千円

しらゆり館 第一研修室、第二研修室内装改修工事 1,780千円

カーサ・フローラ、カーサ21、本館トイレ改修工事 1,320千円

その他、カーサ・フローラ屋外屋根笠木修理工事、体育館南側日よけテント取替工事、

学生課エアコン取替工事などを行った。

機器備品の購入

- 食栄実験実習用物性測定器、脂肪分離機 1,583千円
- カーサ・フローラFCメイツカラオケシステム一式 788千円 他

附属幼稚園について

～ 安定した教育の中で ～

平成22年度の1年を振り返り、大学の教職員・学生から様々な場面において、真心あふれる協力をいただきながら、安定した幼児教育を実践することができた。子どもたちは、豊かな経験の中で、友達と協力することを学び、心優しく成長することができた。

また、3月の東日本大震災後には、4日間で計204名の地域の子どもたちを無料で保育するなどの対応を行い、幼児と保護者の心のケアに教職員全員で取り組んだ。

＜過去2年間の園児数の推移について＞

年度	収容定員	① 園児数 平成22年5月現在	② 園児数 平成23年3月現在
平成20年度	160名	177名	183名
平成21年度	160名	165名	167名
平成22年度	160名	165名	180名

＜平成22年5月1日現在の園児数＞ 年少クラスに満3歳児を含む

年齢	クラス名	男児	女児	計
年少 (3歳児)	さくらんぼ1組	9名	6名	15名
	さくらんぼ2組	10名	9名	19名
年中 (4歳児)	みかん組	18名	18名	36名
	いちご組	14名	12名	26名
年長 (5歳児)	りんご組	19名	15名	34名
	もも組	17名	18名	35名
合計		87名	78名	165名

平成22年度 卒園児数 (平成23年3月14日卒園)	男児36名	女児33名	計69名
-------------------------------	-------	-------	------



☆教育環境の整備☆

1、施設等の整備



(1) カーサ・ファミリア園児避難用滑り台について [2,107千円]

創立35周年を記念して建築した子育て支援施設“カーサ・ファミリア”に園児が避難できる滑り台を平成22年5月30日に設置した。



完成前 → 完成後

(2) 玄関前通路滑り止めシート張替工事 [499千円]

幼稚園玄関前には、雨や雪の日に滑り易い状況を回避するために、滑り止めシートを敷いている。毎日多くの人が行き交うことや設置後9年が経過したことにより劣化し、シートがめくれて危険な状態である。このことから、シートの張替え工事を実施した。

張替え後は、玄関前がグリーンの素敵な色合いになり、園児も安心して通行できるようになった。

(3) 保護者2階会議室・園長室床張替え工事一式 [795千円]

2階保護者用会議室等は、保護者会の会議やサークル活動で使用し、未就園児などが出入りすることから、床面の汚れが目立ってきている状況にあった。来客や会議等で使用し、多くの保護者が出入りする場所であり、よりよい環境で保護者の活動ができるように床の張替え工事を行い、環境の整備を図った。

2、教育研究用機器備品などの充実

(1) 安心こども基金・幼児教育の質の向上のための緊急環境整備事業 [989千円]

幼児教育の質の向上のため、環境の緊急整備を行うことにより、質の高い環境で、子どもを安心して育てることができる体制を整備することを目的とした事業（福島

県より 1/3 が補助される) を活用し、インフルエンザ感染予防のための空気清浄機 (6台) や遊具収納倉庫など保育環境や遊具の充実を図った。

